

“技術さえあれば全世界の方とコミュニケーションが取れる”

～言語が通じなくても、ものづくりの技術があれば、図面などでコミュニケーションが取れる～

約 12 年前からベトナムで会社を出すことが夢だったとおっしゃる高田社長。昔、金型の設備をハノイに据え付け行った時に、ハノイは大手ばかりで自分たちでは挑戦が難しいと思ったが、ホーチミンを経由した際、八尾や東大阪のような油臭い工場地帯を見てチャンスを感じ、そこで海外進出の夢が現実味を帯びてチャレンジしていくことになったのだそうです。



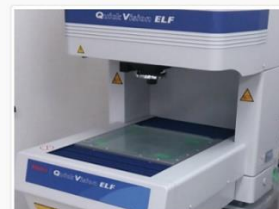
カタチを提案する技

金型技術をベースに、企画・開発の段階から試作品の製作・金型製造・成形加工までを、豊富な経験を生かして具現化するお手伝いをします。



想いに対応できる技

プラスチックはもとより、金属やゴムにも対応可能です。高い技術力によりマテリアルを問わず、小ロット・短納期に対応できます。



信頼に応える技

最先端の設備を用いて、お客様の要求品質に応えます。さらに、あらゆる金型の修理・メンテナンスにも応じます。

コンサル会社のサポートもあり、言葉の壁など困ることは無く進出。ご縁があり交通大学の中の一画を借りて工場を設立。今も同大学からのインターシップが9名ぐらい毎年来ている。ロンアン工場 2000 平米(600 坪)を設立。ホーチミンから約 1 時間半の、日系企業はほぼ居ない土地で、今はベトナム人スタッフだけで回しているとのこと。現地会社から日本の本社に転勤という形もやっている(企業内転勤)そうだ。現在、従業員国籍内訳はベトナム人 9 人(責任者の方は永住権獲得者)、日本人 22 人



↑ 高田社長(左)/取材チーム 辻(右)

日本人だろうがベトナム人だろうが差別や隔たりは無く同じ人間として接しているという高田社長。1 年に 1 度、社長面談している。このような環境の為、他所で働いているベトナム人が転職してくることが多い。実際あった話で、他所の会社のベトナム人がテクノグローバルのベトナム人に声をかけてきて実際に転職してきたケースがあるほど、人材確保に困ったことが無いとのこと。

地元福井に恩返し

社長の地元は福井県。デザイナーで有名な村田智明さんが鳥取県での企業誘致に力を入れていて鳥取県で工場設立をしないか?と声をかけられたが、どうせ田舎で設立するなら福井県の地に恩返しの意味も込めて設立したいと考えた。ちょうど福井県の電子機器製造メーカーが倒産するという事で設計部隊の一部を引き取る事になった。

外国人であろうが日本人であろうが、“人”を大事にしている企業様。フラットな考え方で、違う文化を受け入れて潤滑に回すことができ、人の良さが滲み出ている社長。完全なるホワイトリスト企業。

(株式会社ジャパネクションインターナショナル 辻順優)